

耳科手術における術後感染予防の抗生剤使用についての検討

成井 裕 弥 山本 英 永 陶 陽 林 賢 林 秀 一 郎
大石 真 綾 矢野 さゆり 宮本 ゆう子 新川 敦

新川クリニック

周術期予防的抗生剤投与方法について、耳科領域では未だEBMに基づいた詳細な考察が非常に少ない。それゆえ、術後感染症が起こった際に、もっと抗生剤を使うべきであった、もっとよい薬、もっと強い薬を使うべきであったということにならないよう、最初から必要以上の抗生剤を使う傾向にある。それに伴い、耳科手術の入院日数は、海外の平均1～2日に比べ、本邦では未だ多くの施設で3日以上入院を行い、必要以上の抗生剤が使用されているのが現状である。

加えて近年、抗生剤の不適性使用に伴う耐性菌の出現が問題となっている。特に本邦では、抗生剤の使用頻度を下げる議論がおきにくく、新たな抗生剤を推奨する方向へ傾きやすい。我々は昨年、同研究会において、当院で鼓室形成術を施行された142人の患者において、術後抗生剤を使用した群としなかった群の2群に分け、感染症発症率の比較検討を行った。結果は、感染症の発症率に有意差は認められなかった。

そこで、今年度新たに症例数及び検討項目を増やし同様の研究を行ったところ、昨年と同様に感染率に有意差は認められなかった。本研究をふまえ、今後限られた医療費を有効に利用するため、及び耐性菌出現率を海外と同様な水準に下げするため、通常の耳科手術における、漫然とした抗生剤の長期使用を控える方向性を提唱したいと思う。